ダイジェスト版
２５周年記念 研究報告冊子

みどり丘幼稚園の変遷とその教育
～　キューブな育ちへ　～

大阪のてっぺん【能勢】

【概要】

所在地：大阪府豊能郡能勢町柏原 62-2

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://green-sasayuri.com

定　員：340 名

設　備：保育室、特別保育室、遊戯室、温水プール（10m×15m×0,7m）
運動場、すくすく農園、花壇、絵本の広場（貸出あり）
ふくろうの森（フィールドアスレチック）

子育て支援事業

☆未就園児教室

☆グリーンホーム（預かり保育）

・平日午後 7 時まで

・土曜、春夏冬休みも実施

☆幼児教育相談

保育時間

○月・火・木・金曜日・・・午後 2 時まで

○水曜日・・・・・・・・・・午後 12 時まで

給食

○月曜日・・・・・・弁当持参

○水曜日・・・・・・おむすび弁当持参

○火・木・金曜日・・給食実施

目次

緒のことば

幼稚園の変遷とその教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅰ．大阪府下で唯一の幼稚園型認定こども園・・・・・・・・・・・・・・2

初等教育資料　1、幼児教育　認定こども園

幼児教育を生かした実践の試み・・・・・・・・・・3

2、NEWS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

Ⅱ．イタリア人 女性第一号 医学博士から幼児教育家へ・・・・・・・・6

Ⅲ．モンテッソーリの発見：敏感期の見どころ・・・・・・・・・・・・8

Ⅳ．幼稚園での様々な領域にわたる活動について・・・・・・・・・・・9

生命の保持と情緒の安定「日常生活のレッスン」の領域・・・・・9

表現「感覚教育」の領域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

☆健康「身体運動」の領域・・・・・・・・・・・・・・・13～19

言葉・環境「言語・数・地理・科学」の領域・・・・・・・・・・20

☆ソニー幼児教育プログラムまとめ・・・・・・・・・・・・20～33

人間関係「情操」の領域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

☆教育保育要領　『表現』分野　SENSE　OF　WONDER　・・・36～74

Ⅴ．新たに幼保連携型認定こども園に・・・・・・・・・・・・・・・75

1．国の少子化対策の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76

2．子ども子育て関連3法とは・・・・・・・・・・・・・・・・・77

Ⅵ．告示をみる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78

Ⅶ．告示第一号の内容の解釈の研究・・・・・・・・・・・・・・・・79

Ⅷ．「幼児教育の経済学」　ジェームス・J・ヘックマンの説・・・・80

Ⅸ．「こどもまんなかプロジェクト」を確かなものへ・・・・・・・・81

◇平成28年度幼稚園教育理解推進事業 研究発表・・・・・・・・・・82

Ⅹ．結びに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83

1．これからの幼児教育観―――子どもとキューブ性・・・・・・83

2．設立25周年を節目に教育の研究報告として・・・・・・・・84

◇みどり丘幼稚園20年のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・85

◇子どもたちの成長とともに20年　園児の推移と関係者の方々・・・87

◇第21期～23期　卒園児の皆さん・・・・・・・・・・・・・・・・89

◇平成28年度　在園児の皆さん・・・・・・・・・・・・・・・・・90

◇みどり丘幼稚園　平成25年～29年のあゆみ・・・・・・・・・・・93

◇園児の推移と関係者の方々（平成25年～29年）・・・・・・・・・94

◇第三者学校評価「みどり丘幼稚園について」幼稚園観察・・・・・96

◇謝辞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97

◇平成28年度　職員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98

緒のことば　　～幼稚園の変遷とその教育～

幼児の育ちの充実を図るため、既存の保育所に加え「幼稚園設立」の声が高まり討議の中で「私立幼稚園設立」の途が開かれ平成３年から「学校法人西学園設立」準備、５年にはみどり丘幼稚園が開園した。

能勢町の「思い」を園舎設立の「形」として『学校法人西学園』を創設した「西 冨次氏」 そして、その「形」に「質の良い豊かな教育」のプログラムを地域との関わりも考え、「内容」を提示した「三浦 明氏」、両輪を軸に教職員、地域の人々が力を合わせ、みどり丘幼稚園を育ててきた。 設立２５周年を迎えるにあたり“学校法人西学園”の変遷を顧みると、能勢町東西中央に位置した幼稚園は、平成２２年に“幼稚園型認定こども園”として 大阪府の認可をもって、満３歳児から就学前の幼児教育実践に努めている。 JUN. 2013. NO. 901 初等教育資料に本園の幼稚園教育の変遷の概要があるので紹介をしておく。

編集：文部科学省教育課程科／幼児教育課 「学習指導要領の趣旨の実現」の表紙巻頭で初等中等教育局幼児教育課長の蝦名喜之氏の「幼稚園時代の記憶」の文書を見つけた。

“幼児教育は『目に見えない教育』であるともいわれ、小学校以降とは異なる、教師が計画的に子どもの遊びを確保しながら、環境を通して行う特性を有しているが・・・・・・幼児教育は、幼児の良さや可能性の芽を伸ばし生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることに疑いの余地はない・・・・・・、建物の基礎がその上の構造物によって覆い隠されるように、そうした日々の記憶は、鮮明でなくとも、引き続いた小学校以降の知識や、体験の貯蓄のための揺るがぬ土台となり・・・・・・・”とある。この引用した教育資料と深く結びついた所以は、文部科学省の研究応募に本園の研究課題小論文と教育計画書を提出、その挑戦に対し大阪府私学課幼稚園振興の指導の後、文部科学省から直接の連絡を受けたことである。当時、大阪府下で唯一の幼稚園型認定こども園の認可を受けたことによる一連の賜物であったと思う。

Ⅰ．大阪府下で唯一の幼稚園型認定こども園 平成２２年認可

幼稚園型認定こども園”に至るまでの本園の立地、教育の立場、教育実践の試みを寄稿するようにと文部科学省より数回連絡、直々の指導を受けた。どの様なプロセスで満三歳児教育に路線をつないだかを掲載している。みどり丘幼稚園の変遷の成長には、一つの節目であったように思われる。

初等教育資料 学習指導要領の趣旨の実現

編集：文部科学省教育課程課／幼児教育課

JUN. 2013. No. 901

１、幼児教育 認定こども園

「幼児教育を生かした実践の試み」 ｐｐ.96～～97

認定こども園 幼児教育

幼稚園教育を生かした実践の試み

大阪府 認定こども園 みどり丘幼稚園

本園は、全町公園化構想・将来人口12万人を目指す能勢町の中央、名月峠の頂上に位置し、周囲を緑豊かな自然に恵まれ、広々とした園舎・園庭でのびのびと活動できる環境の下、「ゆたかに、こまやかに、自立を目指して」、基本的生活習慣の形成、豊かな感性・健やかな身体づくり、自主協調の態度の育成などを基本に教育・保育を進めています。

本園の母体であるみどり丘幼稚園は、平成当初、保育所しかなかった町内に幼稚園を設立することについて検討され、私学に委ねるとの基本方針が出された結果、学校法人西学園が幼稚園を創立し20周年を終えました。その理念は本園の特色として生き続けています。

［園の概要］

類型	幼稚園型 認定こども園						
定員 340名	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
保育に欠ける子	0	0	6	18	21	19	64
保育に欠けない子	0	0	25	56	78	76	235
開園時間	7：30～19：00						
学級数	14						
職員配置	学園長・園長1名 園長付1名 学級担任14名（3歳児の4クラスは複数担任） 未就園学級6名 講師1名 主任1名 預かり担当6名（兼務担当5名含む） 事務長1名 事務2名 運転手3名						
施設の概要	園舎面積 9,234㎡ 屋外遊技場面積 1,700㎡						

1 認定こども園（幼稚園型）に至るまで

平成二二年四月、本園は、大阪府下で唯一の幼稚園型認定こども園としてスタートしました。地域の保護者からは、就労していても幼稚園教育を受けられると喜ぶ声が寄せられました。こうした評価を受けるまでには、実に五年もの地道な努力、実績が必要でした。

平成一八年当時、待機児童のない能勢町の状況を鑑み、幼保連携型認定こども園とすることも慎重に検討されましたが、その後少子化が進み、町の東西にあった町立保育所が閉鎖統合されると、町の中央に位置するみどり丘幼稚園に「幼児に豊かな教育と保育の保障」が望まれるようになりました。また、三歳児未満の若い保護者世代から、子育て支援、満三歳児入園などの充実も求められていました。

みどり丘幼稚園において遊びを通した教育実践、とりわけ機能あそびに着目した実践が子育て支援の充実につながると

考え、平成一〇年より未就園児を対象に週二回開設していた親子登園「コロコロ教室」を、平成一四年から「てゆびの部屋」へと発展させてきました。さらに、子育て支援として、グリーンホーム（預かり保育）、子育て相談、おやじの会・休日遊び（地域連携）などを展開してきました。

こうした幼保一体化事業の取組が、町に理解され府の支援も得ることとなり、認定こども園の認定に結実したものと思われます。

２ 本園の基本的な取組

(1) カリキュラム開発

本園は、満三歳前後を感性を育む上で重要な時期としてとらえ、特に機能あそびを大切にし、それに係るカリキュラム開発に取り組んできました。

満三歳前後の時期は場所や順序、所有物へのこだわりをもつ特性があり、その幼児なりの秩序感や吸収心が心の安定をもたらします。教師はこうした幼児の姿をよく観ることで、幼児の育ちを見逃さず、集中力を高められるカリキュラムを作成しています。具体的には、親等への模倣を大切にし、雑巾をしぼる、水を移し替える、縫い物をする、料理をする等の活動を通して、心身のコントロールを目指して手指の調整力を高めるようにしています。現在、これらの実践を通して満三歳児の内面の発達を促し、自己確立へとつながる自発性をはぐくんでいます。

(2) 個から集団へ

満三歳児から三歳児後半、個の確立に見通しがついてくるころには、少人数での伝承あそびなどを取り入れ、徐々に発達に応じた教育として、幼稚園教育要領に沿って自然を通しての色、形、音、味、数、言葉などに関係した感性を養うようにしています。特に、土踏まずの形成の導入、走ることや体操、水泳、集会、機能あそび等をカリキュラムの中に位置付けています。

こうしたカリキュラム上の特色を通して、運動の調整力・歩行の習得（集中・持続）、病気への免疫力の強化（健康への関心）、安全への意識（循環器系の刺激と泳法の習得）、集会における課題に応じた取組（向上心・マナーと責任）、機能あそびによる個としての自信（意欲・好奇心）などの成果が得られているものと思われます。

こうした中で、満三歳児の保育所機能を充実し、長時間保育による幼児の生活の安全や安心を確保しつつ教育を行うことは「子どもの世界」を守ることであると考えています。さらに、本園の取組においては幼児期に学ぶべきことを「社会性のカリキュラム」とし、「幼児の幸福」を考えていく上で重要であると位置付けています。

＊

このように、本園は、様々な課題を抱えつつも幼稚園型がもつ特性を生かしつつ、認定こども園がめざす教育と保育の一体的な運営に向けて努力を重ねています。

（認定こども園みどり丘幼稚園長　三浦塁子）

2．NEWS

認定こども園の平成２５年４月１日現在の認定件数について

調査対象・項目　対象：都道府県

調査結果の概要　認定件数：全国 1099 件 p. 99

NEWS

資料１　平成25年４月１日現在の認定件数

認定件数	（公私の内訳）		（類型別の内訳）			
	公立	私立	幼保連携型	幼稚園型	保育所型	地方裁量型
1099	218	881	594	317	155	33

資料２　認定件数の推移

	認定件数	（公私の内訳）		（類型別の内訳）			
		公立	私立	幼保連携型	幼稚園型	保育所型	地方裁量型
平成21年４月１日現在	358	87	271	158	125	55	20
平成22年４月１日現在	532	122	410	241	180	86	25
平成23年４月１日現在	762	143	619	406	225	100	31
平成24年４月１日現在	909	181	728	486	272	121	30

※平成24年４月26日に調査結果を公表しました、認定こども園の平成24年４月１日現在の認定件数の内訳について、一部誤りがあることが判明しましたので修正しております。

平成一八年一〇月に「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」が施行されてから、各地で認定こども園が次々と認定されています。文部科学省・厚生労働省幼保連携推進室では、認定こども園に係る施策を行っていく上で必要な実態を把握するため、認定こども園認定件数等調査を実施しています。平成二五年四月一日現在の調査結果は以下のとおりです。

認定こども園の平成25年４月１日現在の認定件数について

幼児教育

文部科学省初等中等教育局幼児教育課

1．調査対象・項目

1 調査対象：都道府県

2 調査項目：認定こども園の公私別、類型別の認定件数

2．調査結果の概要

主なポイント

平成二五年四月一日現在の「認定こども園」の認定件数は全国で一〇九九件です。

・平成二四年四月一日と比較し、九〇九件から一〇九九件（認定こども園のある都道府県数は四六から四七）に増加

・認定件数の多い都道府県 1兵庫九三、2東京九一、3北海道五六、4長崎五〇、5神奈川四〇

・平成二四年四月一日と比較して、認定件数の増加数の多い都道府県 1兵庫（+21）、2東京（+17）、3福岡（+10）

認定こども園の認定件数（平成25年４月１日現在）

No.	都道府県	認定件数	公立	私立	幼保連携型	幼稚園型	保育所型	地方裁量型
1	北海道	56 (45)	20 (17)	36 (31)	34 (30)	4 (3)	16 (13)	2 (2)
2	青森県	20 (17)	0 (0)	20 (17)	4 (4)	15 (12)	1 (1)	0 (0)
3	岩手県	23 (21)	7 (7)	16 (14)	17 (14)	3 (4)	3 (3)	0 (0)
4	宮城県	12 (10)	5 (5)	7 (5)	10 (9)	1 (1)	1 (0)	0 (0)
5	秋田県	32 (28)	10 (11)	22 (17)	24 (21)	4 (3)	4 (4)	0 (0)
6	山形県	20 (17)	1 (1)	19 (16)	14 (10)	5 (6)	1 (1)	0 (0)
7	福島県	31 (25)	4 (4)	27 (22)	26 (23)	4 (2)	1 (1)	0 (0)
8	茨城県	39 (31)	6 (5)	33 (26)	[illegible]	3 (4)	5 (5)	0 (0)
9	栃木県	20 (16)	3 (3)	17 (13)	15 (10)	3 (4)	2 (2)	0 (0)
10	群馬県	27 (27)	2 (2)	25 (25)	10 (10)	16 (16)	0 (0)	1 (1)
11	埼玉県	32 (27)	0 (0)	32 (27)	29 (24)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
12	千葉県	26 (21)	12 (7)	14 (14)	22 (16)	1 (2)	2 (2)	1 (1)
13	東京都	91 (74)	20 (13)	71 (61)	18 (12)	42 (43)	21 (9)	10 (10)
14	神奈川県	40 (34)	6 (6)	34 (28)	24 (20)	14 (12)	2 (2)	0 (0)
15	新潟県	26 (22)	3 (2)	23 (20)	21 (17)	4 (4)	1 (1)	0 (0)
16	富山県	14 (10)	2 (1)	12 (9)	10 (7)	2 (2)	2 (1)	0 (0)
17	石川県	8 (8)	1 (1)	7 (7)	4 (3)	2 (3)	2 (2)	0 (0)
18	福井県	10 (7)	3 (2)	7 (5)	10 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
19	山梨県	5 (3)	0 (0)	5 (3)	3 (2)	2 (1)	0 (0)	0 (0)
20	長野県	11 (10)	1 (1)	10 (9)	9 (8)	0 (0)	1 (1)	1 (1)
21	岐阜県	9 (9)	3 (3)	6 (6)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)
22	静岡県	16 (14)	5 (5)	11 (9)	13 (11)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
23	愛知県	19 (16)	4 (4)	15 (12)	14 (11)	0 (0)	5 (5)	0 (0)
24	三重県	5 (4)	1 (1)	4 (3)	3 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (0)
25	滋賀県	23 (18)	11 (10)	12 (8)	22 (17)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
26	京都府	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
27	大阪府	35 (26)	3 (3)	32 (23)	31 (22)	1 (1)	3 (3)	0 (0)
28	兵庫県	93 (72)	19 (14)	74 (58)	31 (26)	37 (29)	23 (17)	2 (1)
29	奈良県	7 (7)	7 (7)	0 (0)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	0 (0)
30	和歌山県	10 (9)	5 (5)	5 (4)	4 (4)	2 (2)	4 (3)	0 (0)
31	鳥取県	14 (11)	6 (4)	8 (7)	8 (7)	2 (1)	4 (3)	0 (0)
32	島根県	6 (4)	3 (2)	3 (2)	3 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)
33	岡山県	13 (9)	12 (8)	1 (1)	9 (6)	1 (2)	3 (1)	0 (0)
34	広島県	32 (27)	6 (5)	26 (22)	27 (23)	1 (1)	4 (3)	0 (0)
35	山口県	9 (6)	0 (0)	9 (6)	1 (1)	8 (5)	0 (0)	0 (0)
36	徳島県	6 (5)	6 (5)	0 (0)	2 (1)	0 (2)	4 (2)	0 (0)
37	香川県	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
38	愛媛県	16 (16)	1 (1)	15 (15)	10 (10)	1 (1)	1 (1)	4 (4)
39	高知県	16 (12)	6 (5)	10 (7)	5 (5)	10 (7)	0 (0)	1 (0)
40	福岡県	36 (26)	5 (2)	31 (24)	17 (12)	12 (8)	0 (2)	7 (4)
41	佐賀県	36 (31)	0 (0)	36 (31)	17 (15)	18 (16)	1 (0)	0 (0)
42	長崎県	50 (42)	0 (0)	50 (42)	14 (11)	23 (20)	13 (11)	0 (0)
43	熊本県	4 (3)	0 (0)	4 (3)	1 (0)	2 (2)	1 (1)	0 (0)
44	大分県	28 (23)	3 (3)	25 (20)	3 (2)	19 (15)	5 (5)	1 (1)
45	宮崎県	34 (27)	1 (1)	33 (26)	2 (2)	30 (23)	2 (2)	0 (0)
46	鹿児島県	34 (30)	6 (7)	28 (23)	22 (19)	6 (5)	6 (6)	0 (0)
47	沖縄県	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
合計		1099 (909)	218 (181)	881 (728)	594 (486)	317 (272)	155 (121)	33 (30)

※「認定件数」の括弧内の数値は、平成24年４月１日現在の認定件数

筆者が、特に満三歳児教育に力を注いでいるかは、本町の幼児教育への責務と幼児期の成長のその時にしか出会わないチャンスに素通りし、過ぎ去っては残念である故、更に、近隣地域の満三歳児前後の教育へ視点を合わせているからである。 その考えの土台となったのは、“環境構成・子どもの自己教育”体系化した教育思想家「マリア・モンテッソーリ」の成長教育「集中現象」の発見とその観察の研究である。満三歳児から就学前の幼児教育は、現代も世界をリードする１１０数年前の“環境構成・子どもの自己教育”を体系化した教育思想家「マリア・モンテッソーリ」の成長教育の研究を重ねて実践の充実に努めているところである。

さて、モンテッソーリって どんな人？

Ⅱ. イタリア人 女性第一号 医学博士から幼児教育家へ
～マリア・モンテッソーリについて～

モンテッソーリは、子どもの観察の末、“人間学と教育論”を展開し、それを「“子どもの自由”の原理と“作業の組織化”」の原理」（クラウス・メール S.58. エンデルレ発）の実現に努力を惜しまなかった。彼女の客観的指標は将来の青少年の生長と開花に連動するものと考えられる。これらの考えは、今日の課題となる「能力・教育」の機会均等、就学前教育の議論の的である。幼児教育が母親の膝の上でと重視したコメニウス、母親自身が子育てをする重要性を説いたルソー、母親を中心とした家庭教育の重要性を説いたペスタロッチ、幼児教育は女性の天職と考え女性教師の養成を行ったフレーベル、これらの教育理念を基に労働者階級の女性の権利としての保育施設を考えたオーエンやモンテッソーリ。幼児教育思想史には、多くの人物の偉業に感動と驚きがある。ペスタロッチも、日本の倉橋惣三も偉大であると思うが、混乱する時期に「保育施設」を考えたモンテッソーリに大変興味を感じる。彼女は女性初のローマ大学医学部の出身者であり、精神科医師の助手であったころ、精神病患者と一緒に収容されていた知恵遅れの子どもたちに興味を抱き、さらに障害児の教育問題に生涯をささげたフランス人医師ジャン・イタール、エドワール・セガンの

二人の業績に影響を受けたことがきっかけで、彼女は「子どもの発見」をしている。

『子どもには、生まれつき、秘められた力が備わっている――――』という新しい見方をしたことである。知的障害児の教育を健常児にも適用していく実践であった。

1907 年当時のローマのスラム街のサン・ロレンツォ地帯 Casa deI bambini「子どもの家」での、貧困で野蛮な子どもたちに秩序ある集中性へと変化が起こる事象であり、1940 年～第２次世界大戦最中において、さらに彼女の教育論がメソッドへと展開していく。モンテッソーリ教育論や方法論としてのメソッド・科学的教育法も子どもの自己活動を重んじる児童中心主義に匹敵する自由への教育の意味であると思っている。

特にモンテソーリは、子どもの『ことばを豊かにする』ために、どのような方法をすすめたか、それはなぜなのかを考えてみる。

モンテッソーリは実物を経験させて教えていく方法を勧めている。それは、単に語彙を沢山、身に付けることだけではなく、言葉の意味を正しく理解して使用できるように次のように配慮している。

①実物を通して体験、事物のあらわす言葉を正確に理解させる。
（人・動植物・身近な物の名前・体験に在ることば・天候、節、曜日など抽象的なことの名前など）
②視聴覚教材を通しての言葉の習得。
（絵本の聞かせ・絵カードあわせ・・名詞以外の品詞の習得）
③教師のストーリーテリング等、意識的に事実と言葉が一致するよう配慮・・など勧めるべき。

考えてみると、なぜ、このように子どもにすすめていかねばならないのか。なぜならそれは、ことばが“思考の道具”として、充分に操作できる能力をもたねばならないからだと思う。人はことばで、ものをしり

（認識)、考え（思考)、伝え（伝達)、創る（創造）など、キューブな捉え方で発展していくのだろう。

２才頃から始まる言葉の爆発期から、話し言葉の、凡その完成期の６～７歳までの子どもは、興味が自発的になり環境に向けられていく。

記憶が持続的になり、筋肉機構が確立する運動の年齢でもある。ものには名前があり、やがて動きや変化を表すことばや、状態やようすを表すことばを具体的な体験を通して身に付けるようになり、ついに話の筋道を立てたことばへと進んでいく。

このように“話しことば”の系統にある『語彙を豊かにする』ことこそ、人間の精神生活の基盤になり、幼児期の段階でしっかり学ばせていくことが大切だと考える。

日本の教育の歴史でモンテッソーリに関しては、倉橋惣三が大正期に関西の保育会で話したことに始まり、その後、モンテッソーリ・メソットが取り入れられるようになる。その後、アメリカのキルパトリックの批判の影響を受けて衰退していくが、昭和期に復活してくる。現代の幼児教育の考え方にも、幼稚園教育要領や、保育所保育指針において、子どもの主体性を重点にして幼児教育の方向性を示している。倉橋惣三が『生活を生活で生活へ』と明快に言い切っている。「子どもは、今を生きる」という考え方は、子どもの自然な育ち方と思う。幼児の主体性を重んじた保育が今後もカリキュラムしていくことが大切なのではないかと、筆者は考えている。

Ⅲ．モンテッソーリの発見：敏感期の見どころ

参照：モンテッソーリとこどもたち．正田幸子訳．S 54．エンデルレ発．p. 86

子どもの様子を想定しながら子ども観を考え直す手立てとして、子どもの自然な固有の特色をモンテッソーリが発見した『敏感期』に沿って記してみる。

しかし、飽くまで一般的な目安であり、個々の発達の敏感期は少しずつ違うことを知っておくべきである。

誕生～生涯に亘り・・・言語
誕生～3才・・・・・・感覚器官の体験
誕生～1才半・・・・・身体を動かしながら学ぶ
1才半～3才・・・・・話し言葉の発達
1才半～4才・・・・・筋肉の調整力の発達
2才～4才・・・・・・周囲や生活への秩序感
2才～6才・・・・・・音楽に興味関心
2才半～6才・・・・・感覚の洗練・社会的たしなみの意識
3才～6才・・・・・・感受性（大人に対して）
3才半～4才半・・・・書き言葉とは違い、鉛筆等で物描く・書く
4才～4才半・・・・・感触が明確
4才半～5歳半・・・・読みたいと意欲
※書き言葉への敏感期は5才以降に訪れる。文字を読むより先に描く物をもって書く

本園はモンテッソーリの教育思想の研究を根底に幼児教育をキューブに捉えている。次の5領域がプログラムされている

①「日常生活のレッスン」の領域
②「感覚教育」の領域
③「言語・数・地理・科学」の領域
④「身体運動」の領域
⑤「情操」の領域

次に領域の概要をまとめる。

Ⅳ．幼稚園での、様々な領域にわたる活動について

生命の保持と情緒の安定　「日常生活のレッスン」の領域

特に満三歳児から年少児での領域では、子どもたちが自分自身のことや身の回りの扱いをどのように対処するかを学び、「自分で服を着る・ボ

タンを留める・靴を脱ぎそろえる・ふたをねじるや、注ぐ水筒を使う・和洋式トイレを正しく使う・机をそろえる・拭く・手洗いを順序よくする・持ち物をロッカーに納めるといった自他へのふるまいとして、多様な日常生活のレッスンで日々、活動をしている。

お顔はこっちむけ

脱いだ服はここ　→コップはどこかな？→　全部入った→机に乗せてひとり背負えるよ

かかとをあわせて→　きゅっとひぱって　→　はけた！

ここをもって　→　あたまをいれて　→　てはここからかな？　→　でたでた

半分　→　もう一回半分　→　ギュッとしぼる

表現「感覚教育」の領域

人間のすべての思考は感覚教育を基礎にして識別すると考える。子どもは自分の全感覚を使ってすべての多様な世界を学んでいく。高さ・長さ・重さ・大きい・色・濃い・甘い・音・におい・形・手触りなど識別

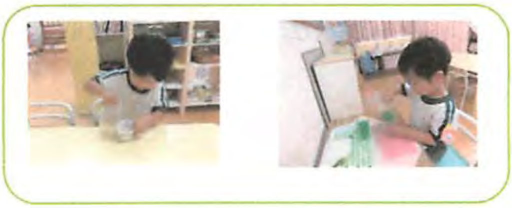
することを学ぶ。毎日の生活の中で、自分のリュックの中身や収納のルール、左右の目印の無い、ゆったりとした白い上靴の脱ぎ履き、コップ付きねじりタイプの水筒使用、被り式でないボタンが多い制服の着用、日陰のあそび場を見つける、空気の匂いと変化を近くに迫る自然の中で・・・日々の感覚教育として三間（空間・時間・仲間）を感じ吸収して自力と自制心で生活をしている。具体的に「感覚教育」の領域においては、特に、手指を重視している。

多彩な動きを人間は状況に応じて程よい力加減で、しかも組み合わせた「連続技」でこなす。例えば　引用：日本経済新聞　2015年3月12日（木)「身近に潜む〝美〟の発見」の記事で次のようなことが書かれていた。

卵を割るときにはコツッと力を加え、ひび割れたところを指の感触で探り当て、爪を使って押し開く。……興味深いのはこうした手の動きが、とりわけ日本をはじめとした農耕文化の国々で、繊細までに発達したことだ。東京大学　名誉教授の大築立志は著書「手の日本人、足の西欧人」（１９８９）で本来遊牧民族だった欧米人が家畜を追う「移動の足」を重視したのに対して日本人は田畑でじっと足をとめ、こまめに手を動かすことで食物を得てきたと指摘している……民芸思想家の柳宗悦は「日本は手の国」といい、ホンダの創業者、本田宗一郎は著書「私の手が語る」（１９８２年)「私の“宝〟」を披露している。「右手は仕事をする手で、左手はそれを支える受け手である。だから、左手はいつもやられる。」(同書)
小まめに手を動かし労を惜しまない精神は現代の物作りでも生きている。「吉田カバン」で知られる吉田（東京・千代田）は国内企業が海外に生産拠点を移す中でも、「手にかなうものはない」という創業者・吉田吉藏の方針に従い、国内の熟練職人たちによるミシン縫い、手縫いにこだわってきた。部分に皮を巻く時は「押さえる」「刺す」「糸を引く」「削る」「磨く」「塗る」などの手の動きをたたみ重ねる。日本人は、手の動き所作を重視している。

ここに通す　→　通った　ここをとおして、ひっぱって

これくらいのながさで　→　長さの加減がわかる



こぼさないように　→　水加減がわかる

（模写）

引用：日本経済新聞　２０１５（平成27年）3月12日（木）ART REVIEW

健康「身体運動」の領域

子どもの自身の発育が分かり自信と活動や運動の加減が分かる。子ども自身が自分の身体に関心や意識が深まり、"何ができる、できないか"が分かる。身体の発育を具体的に知るために運動の様子を測り、また、朱肉で手の平や足の裏面を象りして、成長の証を知る。更に年間を通じ、2歳～5歳児の4年間のスイミングカリキュラムで、免疫力をつける体力づくりと泳法のセンスを吸収している。

《土踏まずの形成》

土踏まずっていったい何？

☆　歩いたり、走ったりした時の衝撃を吸収するクッションのような役割がある。
☆　体のバランスをとるセンサーの役割という大切な役割がある。

土踏まずは衝撃吸収の役割の他に、体のバランスをとる役割もあり、2本足というとても不安定な姿勢で歩く私達には絶対に必要なものある。2本足で歩く事のできない赤ちゃんには土踏まずがない。土踏まずのないサルやオラウータンも、たまには2本足で立つが、それは腰を落としたり膝を曲げて体のバランスをとって移動している。人間のようにスッと立って歩くことはできない。
人間は土踏まずがあるおかげで、二本足で安定して歩くことが出来る。

「土踏まずをつくろう！！」

土踏まずが正常に形成されていくように運動遊びをはじめよう。人は、土踏まず形成が不十分だと足が疲れやすいと言われる。姿勢情報の入力センサーとも言える土踏まずの機能を高めて、制御が遅れたり、必要以上の脚力を使ってバランスをとりにくい事のないように裸足でできるだけ遊ぶのを助長していこう。

運動においては、平衡感覚、つまり瞬時に力を発揮しやすい姿勢がとれるか否かが、瞬発力や、動作の切り返しに大きな影響を与える。

健康な足を目指そう！

「じゃぁ~土踏まずってどうすればできるの？」

☆ 裸足で生活することで、土踏まずの成長に良いと言われている。

☆ 草履や下駄など、鼻緒付きの履物を普段活用する事で足の筋肉の鍛錬になり、土踏まず形成に効果があると言われている。

実践

年少～年長組は１年に２回（６月・１月）足型をとる。この写真は、以前に撮った足型である。７ヶ月の間にこんなに土踏まずが出き、足指も浮いた指がなくしっかりととれている。下記の左の足型６月、右が１月の足型の写真である。

【どんぐりを挟んだI.Hの足指】

【登り棒】

【下駄遊び】

【乾布摩擦】

【草相撲】

【ロッククライミング】

下記の土踏まずは、3年保育（K.F）の足型である。（平成19年～22年在園）
全体的には足が一年間で0,5～1,5ｃｍも大きくなっている。

最近は大人も子どもも足の指を動かす運動が減ったと言われている。じゃんけんのグーと、パーを足の指でやることで、足指が動かせる範井が広がる。この動作が自然にでき、足指に力が入るようになるので身体は安定し、体の力みもなくなり、バランスの良い状態となる。

たくさん身体を動かして足踏まずを作ろう!!

１８期 卒園児　I.M君

３才

４才

１２才

平成２８年度教職員の足形

土踏まずレポート（足の内側と土踏まずの幅）

調査対象
みどり丘幼稚園職員 21歳から71歳まで 34名 年齢 身長 体重 スポーツ歴 （詳細は下記）
前提条件
足の内側と土踏まずの距離を測定しW とした

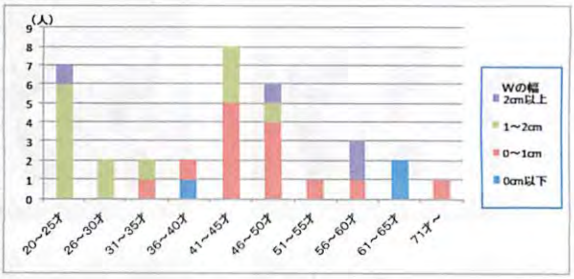
年齢（歳）	人数
20～25	7
26～30	2
31～35	2
36～40	2
41～45	8
46～50	6
51～55	1
56～60	3
61～65	2
71～	1
計	34

体重（Kg）	人数
～40	1
41～50	8
51～60	10
61～70	11
71～	4
計	34

スポーツ歴	人数	スポーツ歴	人数
水泳	5	ソフトボール	1
バレーボール	4	ダンス	1
テニス	3	バスケット	1
バトミントン	3	剣道	1
体操	2	軟式テニス	1
卓球	2	陸上	1
野球	2	なし	6
サッカー	1	計	34

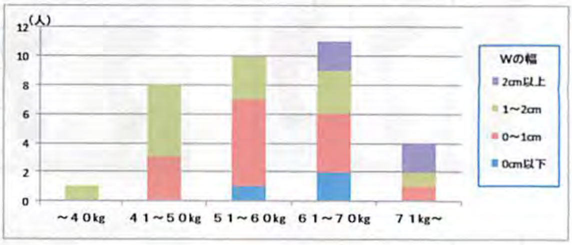
年齢での調査（Wの幅）

	0cm以下	0～1cm	1～2cm	2cm以上	総計
20～25才			6	1	7
26～30才			2		2
31～35才		1	1		2
36～40才	1	1			2
41～45才		5	3		8
46～50才		4	1	1	6
51～55才		1			1
56～60才		1		2	3
61～65才	2				2
71才～		1			1
総計	3	14	13	4	34



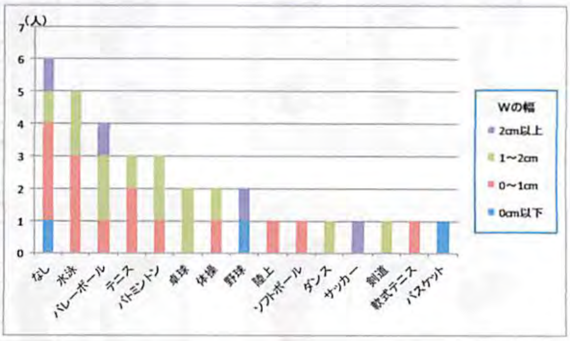
体重での調査（Wの幅）

	0cm以下	0～1cm	1～2cm	2cm以上	総計
～40kg			1		1
41～50kg		3	5		8
51～60kg	1	6	3		10
61～70kg	2	4	3	2	11
71kg～		1	1	2	4
総計	3	14	13	4	34



スポーツ歴での調査（Wの幅）

	0cm以下	0～1cm	1～2cm	2cm以上	総計
なし	1	3	1	1	6
水泳		3	2		5
バレーボール		1	2	1	4
テニス		2	1		3
バトミントン		1	2		3
卓球			2		2
体操		1	1		2
野球	1			1	2
陸上		1			1
ソフトボール		1			1
ダンス			1		1
サッカー				1	1
剣道			1		1
軟式テニス		1			1
バスケット	1				1
総計	3	14	13	4	34



土踏まずレポート（足型の側面とかかとを結んだ線を下に伸ばし交差する点からかかとまでの長さ）

調査対象

みどり丘幼稚園職員
21歳から71歳まで 34名
年齢 身長 体重 スポーツ歴
（詳細は下記）

前提条件
足型の側面とかかとを結んだ線を下に伸ばし交差する点からかかとまでの長さをXとした。（Xが短い方がよく使った足とされています）
※土踏まずの形成と幼児の発達課題

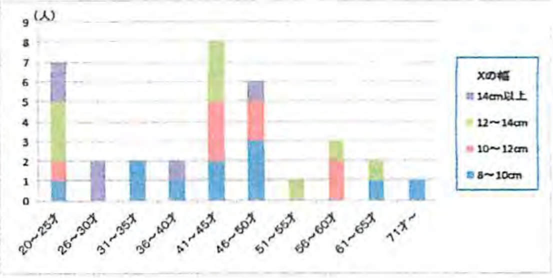
年齢（歳）	人数
20～25	7
26～30	2
31～35	2
36～40	2
41～45	8
46～50	6
51～55	1
56～60	3
61～65	2
71～	1
計	34

体重（Kg）	人数
～40	1
41～50	8
51～60	10
61～70	11
71～	4
計	34

スポーツ歴	人数	スポーツ歴	人数
水泳	5	ソフトボール	1
バレーボール	4	ダンス	1
テニス	3	バスケット	1
バトミントン	3	剣道	1
体操	2	軟式テニス	1
卓球	2	陸上	1
野球	2	なし	6
サッカー	1	計	34

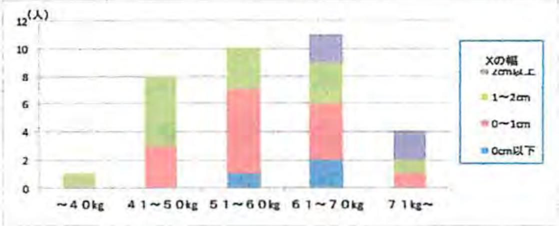
年齢での調査（Xの長さ）

	8～10cm	10～12cm	12～14cm	14cm以上	総計
20～25才	1	1	3	2	7
26～30才				2	2
31～35才	2				2
36～40才	1			1	2
41～45才	2	3	3		8
46～50才	3	2		1	6
51～55才			1		1
56～60才		2	1		3
61～65才	1		1		2
71才～	1				1
総計	11	8	9	6	34



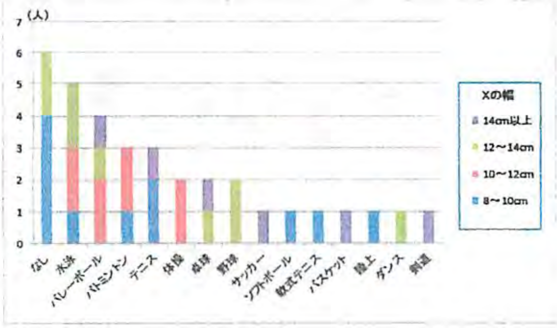
体重での調査（Xの長さ）

	8～10cm	10～12cm	12～14cm	14cm以上	総計
～40kg			1		1
41～50kg	3	2	3		8
61～70kg	3	2	3	3	11
51～60kg	2	3	2	3	10
71kg～	3	1			4
総計	11	8	9	6	34



スポーツ歴での調査（Xの長さ）

	8～10cm	10～12cm	12～14cm	14cm以上	総計
なし	4		2		6
水泳	1	2	2		5
バレーボール		2	1	1	4
バトミントン	1	2			3
テニス	2			1	3
体操		2			2
卓球			1	1	2
野球			2		2
サッカー				1	1
ソフトボール	1				1
軟式テニス	1				1
バスケット				1	1
陸上	1				1
ダンス			1		1
剣道				1	1
総計	11	8	9	6	34



園の分析・結果

Ⅰ 目的 ：体重・スポーツ歴などで土踏まずの形成を調査した
Ⅱ結果・分析：当園での土踏まずが少ない職員は34名中2名であった
Ⅲ 考察 ：体重では特徴を見つけることが出来なかったが、スポーツ経験からいえば、スポーツ経験なしの方が土踏まず形成が低いことが分かった。
従って、スポーツ経験が土踏まずに形成に良い影響を与えるという可能性を今回の結果から読み取ることが出来た。

《年間を通して行うスイミング》

2〜3歳児の水慣れから順次、ビート板・リング・竹など補助具を用い、4歳児では浮力を感じ泳ぎたいと心がはやり、5歳児では泳法をゆっくりマスターするという、3，4年のスパンでスイミングカリキュラムが用意されている。スイミングは全身運動により基礎体力がついてくる。スイミングは安全、健康にとても大切である。また、水泳技術だけでなく、幼児期にあった社会性生きる力なども大切にしている。

スイミング年齢別ねらい

2歳児･･･水を十分楽しみ、好きになる

3歳児･･･水中でバランスをとる。
水遊びなどを取り入れ、楽しむ中で水に慣れる。

4歳児･･･ビート板などを用い、いろんな状態や角度から水の抵抗を体感し、水に浮く感覚を身に着ける。

5歳児･･･潜りや浮き身を習得し、泳ぐ楽しさを知り意欲をもって取り組む。
綺麗な姿勢で浮いて進む。

言葉・環境「言語・数・地理・科学」の領域

子どもの知的発達を刺激、興味津々、好奇心が高まる。自ら想像し創造へと発展する。自然の森の遊びで出会う様々な植物や、実をつける木々、小さな生き物、アスレチックの工夫された遊び道具と冒険心、小さな小屋で仲間と対話し安全に遊ぶ計画案、種から栽培する持続力と食物への関心の高まり、発酵するものを知る学び、自然の移ろい、落ち葉や小石拾いの数と分別、お天気・気象調べなど、日々出会う不思議さと不安さと安心と喜びで意欲的に過ごしている。

【水温調べ】

【風向計】

【お天気調べ】

◎次に科学する領域のまとめを記述することにする。

ソニー幼児教育プログラム
「科学する心を育てる」への取り組み

「言語・数・地理・化学」の領域で本園が、2002 年（H14）に第一回ソニー幼児教育支援プログラムに応募した。この研究を機に園児の好奇心への探究が文字化される。その研究歴を記しておく。

園の特色・研究歴など	・H5年度～9年度…手と脳のはたらき、機能遊び実践研究のまとめ（生活習慣の自立と伝承あそび） ・H12年度　…保育研究発表・大阪府私立幼稚園連盟研究指定公開保育 ・H14年度　…満3歳児保育研究　モンテッソーリ教育による機能遊び考察 ・H14年度　…第1回『ソニー幼児支援P』に応募。テーマ「自立の育み」で【努力園】に選定 ・H15年度　…"科学する心"を視点に「ちびっ子お天気クラブ」発足、計画実施 ・H17年度　…文部科学省　教育改革推進モデル事業指定園　テーマ「機能遊び」 ・H18.19年度　…大阪府金融広報委員会指定園　金融・金銭教育の実施 ・H18年度　…文部科学省　教育改革推進モデル事業指定園　テーマ「癒しの音作り」 ・H18年度　…第4回『ソニー幼児支援P』に応募。テーマ「イモリの天気予報士」で【優良園】に選定 ・H19年度　…文部科学省　教育改革推進モデル事業指定園　テーマ「食育」 ・H20年度　…第6回『ソニー幼児支援P』に応募。テーマ「えっ!!　お日さまがでんきを作る!?」

第１回【2002（H14）年度】
第２回【2003（H15）年度】

第1回・2002年度（平成14年度） ソニー幼児教育支援プログラム

第1回・2002年度「ソニー幼児教育支援プログラム」は、全国24都道府県の幼稚園・保育所から53件の応募をいただき、慎重な審査の結果、41園が入選されました。勇気を持って、チャレンジされた幼稚園・保育所の園長はじめ、保育者の方々に、心より、敬意と感謝を申し上げます。

また、優秀プロジェクト園および佳良プロジェクト園の保育実践と保育計画の概要が、当財団のホームページ（http://www.sony-ef.or.jp）でご覧いただけます。

小山台保育園	（公立）	東京都品川区
戸山幼稚園	（公立）	東京都新宿区
港南幼稚園	（公立）	東京都港区
[illegible]幼稚園	（公立）	東京都[illegible]区
[illegible]大学附属幼稚園	（私立）	神奈川県[illegible]市
[illegible]大学附属幼稚園	（国立）	愛知県名古屋市
[illegible]幼稚園	（私立）	愛知県[illegible]市
[illegible]幼稚園	（公立）	愛知県[illegible]市
[illegible]小学校附属幼稚園	（公立）	岐阜県[illegible]市
[illegible]幼稚園	（私立）	岐阜県[illegible]
三重大学教育学部附属幼稚園	（国立）	三重県津市
[illegible]	（公立）	大阪府[illegible]市
[illegible]大学附属[illegible]幼稚園	（私立）	大阪府[illegible]市
みどり丘幼稚園	（私立）	大阪府豊能郡
[illegible]保育園	（私立）	岡山県[illegible]市
[illegible]幼稚園	（私立）	広島県[illegible]市
広島YMCA保育園	（私立）	広島県広島市
[illegible]幼稚園	（私立）	広島県[illegible]市
[illegible]幼稚園	（公立）	山口県山口市
[illegible]幼稚園	（私立）	[illegible]県[illegible]市
[illegible]幼稚園	（公立）	福岡県[illegible]

お問合せ先：
財団法人 ソニー教育財団
〒140-0001 [illegible]
電話 [illegible] Fax [illegible]
ホームページ http://www.sony-ef.or.jp

第2回・2003年度（平成15年度）「ソニー幼児教育支援プログラム」

幼稚園・保育所名

学校法人 西学園
みどり丘幼稚園

取り組みのテーマ名

保育研究 「科学する心を育てる」
自然であ・そ・ぼっ "お日さまといっしょ"

目次

２００２年４月～２００３年８月

※ H14年度「自立の芽み」（機能遊び→生活遊び→[illegible]）
※ H15年度 機能遊び（内なる自立）と子どもの生活（科学する心）～

○はじめに P1
1. [illegible] P1
2. 満3歳児 機能遊び・・・[illegible]（やってみたいな） P2
3. 3歳児＜先生と一緒に＞機能遊びを通して・・・やさしい心 P3
4. 4歳児＜友達との関わり＞[illegible]遊びを通して・・・自分から友達へ P4
5. 5歳児＜仲間作りを豊かに＞社会見学から・・・チームワークへ P5
6. [illegible] P6
7. H14-15年度学期別機能遊びのポイント・お天気クラブ年間計画 P7
○おわりに 資料 P8-P10

2003年９月～2004年３月

～機能遊び（内なる自立）子どもの生活（科学する心）～

○ はじめに P1
1. 機能遊びで自分探し・・・・・・・・・・こっそりお花見まで P1
2. 私のおしごと・・・・・・・・・・・・・やってみたいな P2
3. 花の観察・[illegible]観察・・・・ふしぎだな？ P3
4. レストランごっこ・ちびっこ[illegible]・・自分の世界へ P4
5. 機能発達の理解と保育の流れ P5
6. ちびっ子お天気クラブ年間計画 P6
○ おわりに P7
資料 P8-P10

応募内容要旨

"内なる自立" を求めて「機能あそび」を展開。この展開が子どもの生活にどのように反映させさせられるのだろう・・・と考えている矢先、第１回 "科学する心を育てる" の幼児教育支援プログラムが私達の教育を一歩前進させてくれた。そして第２回、更に子どもの生活と不思議な世界の科学への視点を当てた教育のカリキュラムは、水を得た魚のように勢いがつき、教師が一丸になって科学性をもって動き出した。と同時に "機能あそび" で子ども達の自由自在になった＜心と手＞は、科学する＜心と手＞に成長し、次に身の回りにある自然の不思議に気付き行動し始めた。

見えないものを形にしていく面白さ。

観察の継続実績が自分自身の生活(遊び)を決定させていく自信。

未知への好奇心や興味の拡大、それらの発見の喜び。

以上の事は確実に子どもの「生きる力」の育みとして大人の環境責任と成すべき支援では考えている。

幸いにして園舎は、自然いっぱいの山中にある。木々の揺れ、葉っぱのささやきは風の音。木肌や木のこや花の香りは、空気の匂い。朝露や霧はベールの衣。小鳥のさえずり、虫の音、木の実は自然の贈り物。山に住む蛇もしかもステキな友達。自然は無言で幼子に語りかける。静かな優しさと、時には厳しさも教えてくれる。 私達は幼児教育の吸収したいと思う心に沿いながらプログラムする。一人ひとりの真の自立に向けて "機能あそび" を面白く展開する。そこから忘れてはならない、他者への心配りやマナーを学び責任ある行動を身に付けていけるよう配慮していく。自由と責任はコインの表裏であるようにカリキュラムは、自由あそびと課業(子どものお仕事)で繰り広げられる。

第４回【2006（H18）年度】

2006年度(平成18年度)「ソニー幼児教育支援プログラム」

主題:「科学する心を育てる」

幼稚園・保育園名	学校法人　西学園　みどり丘幼稚園
取り組みのテーマ名	ホントに！あるのかな？「イモリの天気予報士」

主文（項目・ページを記載）

Ⅰ. はじめに	～成長・自立(0歳から)と共に科学が好き！おもしろい！！～ <イモリの天気予報士に至るまで>
Ⅱ.「科学する心を育む」の視点とスローライフ"成長のプロセス"の研究	<1>幼稚園の教育特色<2>特色<3>取り組みの具体化<4>園の自然との融合～ふくろうの森～<5>自立する心と身体の成長に伴なう「科学の心」の芽生え<6>科学の目〔各学年の実践報告のまとめ〕NO．1　雲調べ　・温度調べ　・太陽の動きを知ろう〔各学年の実践報告のまとめ〕NO．2天気図の収集・夕暮れの園庭で・イモリの天気予報士デビュー
Ⅲ.「子どもの探求心に向かって」の過程	☆継続と出会いと観察<研究に当たって特筆すべき点について>　☆出会い〔ソニー教育財団ホームページ掲載・～9月～〕　☆出会いから発見→観察
Ⅳ. 研究のまとめ	①ふくろうの森で直接体験し創造の世界へ心膨らむ　②命の尊重　③まとめの図式
Ⅴ. 交流	～命を大切にした事は、隣人へのつながりに発展～

応募内容要旨

第1回“科学する心を育てる”の研究で応募し努力園と指定を頂きました。第2回「子どもの科学の心の育みは、手指機能発達に伴って自立へと向かう心を基に育つ」を研究しました。具体的に実生活へおろしていき、見えないものを形にする「自分の自立」（機能あそび）から→自由自在になった手や心で自然の不思議さへ気づき、チャレンジするカリキュラムを安全性をもって組み立てました。自主的に日常的に目にする事が出来るように“ビオトープ”をできる限りよい環境へと更に見直していき、この自然の恵みを大いに活用し、確かな「科学する心」へと一歩一歩前進できるよう配慮していきました。そのような途上で「みどりっ子天気予報士」のデータ収集は、身近にいる小動物と、どのように関わりあっているかを見い出すに至ったのでした。小さな発見に気付き、毎日が楽しくてしょうがない子どもの目の輝きをまとめてみたいと思い、三度目の応募に挑戦しています。

みどり丘幼稚園<大阪府>

６月上旬、幼稚園の池の草をあがっていく虫を見つけました。子ども達はその見なれない虫が何か知りたくて、じっと見ていました。動かない様子を感じて、早速図鑑を持ってきて調べました。「ヤゴ？」ますます興味をもって注目していると、羽化を始めました。茶色い虫から茶色の身体、少しずつ乾いていく伸びる羽…。トンボです。確かにトンボとわかると、子ども達は「何トンボだろう？」と調べ始めました。それは、「シオカラトンボ」でした。

この後、７月上旬まで１０回もこうした羽化を見ることが出来ました。羽化したトンボは、すべてシオカラトンボでした。この間に、羽化をした赤ちゃんトンボはオスとメスどちらも茶色だったのが、しばらくするとオスのトンボは成長すると青色に変わること、オスは“シオカラトンボ”と呼び、メスは“ムギワラトンボ”と呼ぶことなど、オスとメスの違いについて色々なことが分かってきました。羽が伸びしっかりするまで見つめる表情や触りたいけどその気持ちを抑えて見守る様子から、羽が大切なことを実感していることが分かりました。こうして「図鑑で見て知っているトンボ」ではなく、「この池でどのように育って飛んでいるのかを知っているトンボ」になりました。子ども達は、シオカラトンボを見つけると、「幼稚園で生まれたトンボかな」「帰ってきたのかな」と話したり、茶色のトンボを見つけると、「あっ、赤ちゃんトンボだ！」と言い、様子を見守ったりしています。

トンボは最初から飛ぶことができると思っていた子ども達にとって、トンボの生態を知る良い機会になりました。これから出会うたくさんの小さな生き物から、子ども達はたくさんの不思議を感じることと思います。

くも・おひさま・イモリ
みどり丘幼稚園（大阪府豊能郡）

戸外で伸び伸びと体を動かして活動できる園庭の他に、園の敷地に残る自然を生かした斜面の「ふくろうの森」や、「畑や飼育小屋」「ビオトープ」「裏山」など、様々な自然体験ができる環境をつくり、自然に親しみ自然の中で遊ぶことを大切に考えて実践を重ねている。さらに、子どもたちの遊びにかかわりがある「天気」に関する自然にも興味や意識をもち、生活して欲しいと願うことで、子どもたちの様々な経験を援助することに結びついた。

3歳児

4月から戸外遊びを存分に楽しんできた。その折々に、3歳児が空を見上げたり日の光や雲の様子、空の色など、空に興味をもつようなやりとりも重ねた。

3歳児でもわかる「飛行機雲」を見つけると「くも！」「ひこうき！」（飛行機雲のこと）などと呼んで見上げる様子が見られるようになった。

→

くも、できた！！

雲を楽しみ、新聞紙で遊んで、新聞紙を丸めて白いビニール袋にいれ、「くも」を作る。「くも！」「くもできた」と言う。

完成した雲を保育者が持ち上げると、雲に触ろうと手を伸ばしたり「くも！くも！」「とんでいっちゃう」と言う。

4歳児

5歳児が天気調べをし、天気を教えてくれることから、天気に興味をもつ子どもがいる。

太陽が出ていると影ができることに気付き、豆移し遊びで使っていた器で、影を作って調べている(遊んでいる)と影が短くなったことに気付き「太陽さんがしゃがんだみたいだね！？」と言う子どもがいる。

→

影遊び

自分や友達の影を見る。「僕たちが動くと、この影も動くね！」と気付き話す。

影踏み鬼など影遊びをする。

5歳児

毎日のように、天気を調べて表示したり小さな組の子どもたちに話したりしている。（興味をもつ子どもたちが多いので、温度計の他、百葉箱や風向計などの環境がある）

雲が流れていることに気付き、「雲が全部同じ方向に行くね」「風が吹いている方向といっしょみたいだよ」と言ったり風向計を見に行ったりする子どもがいる。

→

イモリと天気

梅雨時にイモリが大発生した。「どうしてヌルヌルしているのか？」「餌は何か？」など疑問や不思議さを感じながら興味をもって観たり捕まえたりして、15匹飼うことにする。

<感じる・疑問をもつ>
- イモリにも手がある。
- 指が4本だ。
- どうして体はヌルヌルするの？
- 赤色の模様がある。
- 気持ち悪い。・面白い。
- 夜は寝るの？
- 何を食べるの？
- 餌はどうしたらいいの？

↓

<考える・思いやる・確かめる>
- 死んでつらい思いをしないように飼い方をよく調べよう。
  （5月に保護者が見つけた弱っている小鳥を育てていて、死んでしまった経験がある。）
- 天気とイモリの様子を調べよう。「何でイモリには天気が分かるの！？」「しっぽでわかるの？頭で考えるの？」「本当に当たるの？」「2匹石の上にいる。明日晴れかな？」
- 餌のミミズを見つける。食べるところを観る。「ケンカしているみたい…」ミミズにも命があることを考える。

みどころ

子どもにとって、天気は「外で遊べるか」「いつから遊べるか」という判断に必要な、身近な自然現象です。3歳児でも、空や天気を意識できるような経験や保育者とのやりとりがあることで関心をもち、見たり気付いたことや思ったことを言葉に表したりします。実態に合った教材で楽しみながら雲を表現し楽しむことにも結びついています。4・5歳児では、体験を通して感じたり考えたりしたことを表す子どもの言葉を丁寧に取り上げることで、子ども同士のやりとりが豊かになり、様々な表現が引き出されています。

餌はどうしたらいい？（命の尊重～生き物との出会いを通して～）
みどり丘幼稚園（大阪府豊能郡）

戸外で伸び伸びと体を動かして活動できる園庭の他に、園の敷地に残る自然を生かした斜面の「ふくろうの森」や、「畑や飼育小屋」「ビオトープ」「裏山」など、様々な自然体験ができる環境をつくり、自然に親しみ自然の中で遊ぶことを大切に考えて実践を重ねている。そこでは、様々な生き物との出会いがあった。例えば、道で出合ったカメを園で飼育することになり、飼ってみるとカメが意外と速く移動し逃げてしまうことがわかり、そうしたカメのために運動場を作った子どもたちがいた。

このように、生き物を思いやり、「命の尊重」につながる心の育ちをした実践をまとめる。

	小鳥	→ イモリ	→ トンボ	
出会い	[illegible]者が、弱っているスズメを、持ってこられる。 ・巣から落下したツバメのヒナを見つける。	・梅雨時に、イモリが大発生し、たくさん見つける。 ・水槽に 15 匹集まる。 ・みんなで飼う。	・メダカの赤ちゃんがいる。 ・池（ビオトープ)の中のこの虫は何。 ・羽化を 10 回見つける。	自然に興味をもち、繰り返しかかわる。
感じる（不思議・疑問）	・弱っているけど大丈夫かな。 ・スズメの飼い方は、インコと同じなのかな。 ・目をつぶりそう、頑張れ！ ・大事に育てたけれど死んでしまった。	・イモリにも手がある。 ・指が 4 本だ。 ・どうして体はヌルヌルするの？ ・赤色の模様がある。 ・気持ち悪い。・面白い。 ・夜は寝るの？ ・何を食べるの？餌はどうしたらいいの？	・これは虫だ。 ・トンボの赤ちゃんのヤゴかな？草を登ってる、これもヤゴかな？ ・ヤゴから羽が出てきた。トンボになるの？ ・トンボの名前は何？	不思議や疑問を感じ、楽しむ。 興味や観察を継続する。
考える	・餌をやりすぎたのかな。 ・水、飲めなかったのかな。 ・お墓を作ってあげよう。	・死んでつらい思いをしないように飼い方をよく調べよう。(小鳥の経験から) ・何でイモリには天気が分かるのか。頭で考えるのか。本当に当たるのか。 ・天気とミミズの様子を調べよう。 ・餌のミミズを見つける。 ・ミミズにも命がある。	・トンボになるか見ていよう。 ・羽が乾いてトンボになった。 ・シオカラトンボだ。オスとメスは違うんだ。 ・飛んでるトンボを見つけ「幼稚園で生まれたトンボが帰ってきたのか」と思う。	生き物を思いやる。 命の存在を考える。

<考察>　小鳥との出会いで感じた「生き物の生と死」の体験は、幼児なりに飼うという責任を感じてイモリを飼育する姿に結びついた。トンボの羽化に出会えたことで、池の中の生き物への興味が増し熱心に観察するようになり、生まれているトンボの名前やオスメスの違い、ヤゴが羽化しトンボになって飛び立つまでの変容など、興味を追求することで様々なことを知ることができた。

ポイント

アリやダンゴ虫、スズメやカラスなど自然の中で出会える小さな虫や小鳥、園の誰もがかかわれる飼育物など、園では様々な生き物との出会いやかかわりが見られます。その一つひとつの場面で「どのように出会い」「何を感じ」「どのような考えや思いをもってかかわったのか」を細やかに捉えることで、子どもたちが貴重な体験を重ねて、生き物や命に関する「科学する心」が育まれていることが分かります。

第６回【2008（H20）年度】

主題：「科学する心を育てる」

学校法人　西学園　**みどり丘幼稚園**

取り組みのテーマ名　　え！おひさまがでんきをつくる！？<ぼくらのビオトープは、地球の変身>

目次

○	はじめに	<主眼><きっかけ><取り組み><取り組みの経緯と捉え方>	・・・P1
Ⅰ	起動	科学するPTA	・・・P4
Ⅱ	実践(1)	親と子で風と遊ぼう(お母さんの一日理科先生)	・・・P5
	実践(2)	郷土文化"人形浄瑠璃のふしぎ"～その芸術性～	・・・P7
	実践(3)	人形浄瑠璃へのいざない<鑑賞企画計画>	・・・P8
Ⅲ	観察と理解	人形の仕組み「触ってみよう！」	・・・P9
Ⅳ	学習体験(1)	電気ってどうして作るの？(東さんの蓄電方法)	・・・P10
	学習体験(2)	えっ！おひさまって電気を作るの？	・・・P12
Ⅴ	考察と成果	気付くこと、科学の芽育ち	・・・P13
Ⅵ	今後の課題	楽しくエコロジー「きれいなビオトープは地球の変身だ！」	・・・P14
Ⅶ	おわりに	やってみよう	・・・P15
○	これから	これからの教育の視点「生きる力：環境と幼児教育」	・・・P17

「科学する心」の捉え

本文に記述した内容(要約など)エネルギーとは？

「科学する心」を今回は、"動力"から捉えてみた。"動く"という現象をどのように捉えていくか、身近な廃材を使って風と水で遊び、また、郷土の伝統的な浄瑠璃人形を通して人間の知恵のからくり遊びから"太陽光発電"というエネルギーをどのように感じ、どのように学び得るかなど、科学遊びを体験していく。

何故、いきていられるのか、いきるためには、この現象をいかに捉えて工夫していくか、伝統や文化、文明の知恵をエコロジーとして考えていける「科学する心」の捉えである。

応募内容要旨

「え！おひさまがでんきをつくる！？」～ぼくらのビオトープは、地球の変身～

園・地域・親・学校の連携で、幼児の感性に沿って、環境の考え方に迫った研究で特に太陽エネルギーに気付く迄の体験・実践である。「なぜ動くの？」への不思議な心。子どもの真実をたどる環境の見直しである。

郷土文化に触れ、浄瑠璃人形の動きのからくりに興味をもち、"動く力"に関心を深めていく。風や水くみあげポンプ、更に違ったエネルギー太陽光を蓄めて電気交換器から得る電気で毎日、水車や噴水が動き、生物にとってどれだけ澄んだ水のビオトープでいられるかの太陽光を利用する試みである。地域ぐるみでの芸術性と科学性の融合でもある。からくり遊びを楽しみ、見えないものを見ようとする好奇心。廃材からの風車や飛行機作りの遊びを通じてのエコロジー。美しいビオトープの為の水車と噴水を保持するエネルギー・エコロジーの科学する心である。

第９回【2011（H23）年度】

平成22年～23年度
科学が好き！　不思議・発見・おもしろい！
テーマ『よ～し、みそをつくろうよ！！』

「桐の花　いいにおいだな～！」

「桜の花を描いてみよう！」

「これ！　ヤマゴボウの実！」

ふくろうの森　かやぶきの小屋！

「モリアオガエルの卵！」

「ふくろうの森には
沢山の草があるよ！」

「わぁ！モリアオガエル
の卵を発見！」

「めだかの赤ちゃん
いっぱいだよ！」

「初採りのナスとピーマンだよ！」

「ほうばのお面だぞ～！」

「ソレ！　ターザンだよ！」

学習の様子

自分達で試してみた堆肥で作物を育てる

～育てた大豆で、きな粉を作ったり、味噌を作ろう～

・農園活動では、残飯を土に返し、畑をつくり、野菜を育てています。
畑に大豆を植えました。

残飯で作った堆肥の畑で立派な【大豆】が出来ました！！
お当番さんは毎日、交代で畑に来て観察を続けました。
出来た【大豆】を干して乾燥させましょう。

大豆のさや落とし
カラサ作業

【大豆】

いよいよ、収穫の時です。
【大豆】をさやから取り出していきます。
たくさん育って嬉しいですね。

「あんまり強くたたいたら
豆がつぶれるよ！」
「わ～！はじけた！」

<見事！実の詰まった【大豆】の完成>

いよいよ、味噌作り開始です！
大豆をゆがき、すりこぎで優しくつぶしてみよう。

大豆のいい香りがするね！！

次は塩、湯がき汁を混ぜていきます。
混ぜ終わったら、次は麹を混ぜます。

・残飯や腐葉土で作った堆肥の畑から待望の【大豆】が出来ました。大豆は、みんなの手で丁寧に収穫されてお味噌に大変身することができるのでしょうか。
手作りのお味噌は秋祭りに美味しくいただきたいと計画しています。
・昔からお味噌は保存食として大切にされてきました。
食べ物を大事にすることが生活の中の「ECO」に繋がることを今後も伝え続けていきたいと思います。

美味しいお味噌ができますように・・

味噌と仕込み　　　　　　実際の味噌作りの様子

①大豆を水につけたよ！

②水切りをします！

③こうじと混ぜ合わすよ！

④うわぁ～！　いい香り！

⑤グツグツ煮えてきたね！

⑥ヒシャクで煮汁を入れて…！

⑦むっちゃ美味しい！！

⑧ざるにあげよう！

⑨大豆の煮皮とり。
柔らかく煮えたね！

⑩煮汁も大切！

⑪つぶすと、こんな豆になりました！

⑫皆で塩と混ぜ合わせよう！

⑬杵と臼でペッタンコ！

美味しいお味噌に
なぁ～れ！！

⑭これで完成！
空気にふれないようにピッタリと押して
蓋をしてから熟成させようね！

考察と成果　　**1【気付くこと、科学の芽育ち《研究実践まとめ》】**

1．生活と発酵に関する循環学習

大阪府立能勢高等学校家庭科部
みどり丘幼稚園よいこのかがく部

目的

・発酵とは何かを知る。
・身の回りの微生物について知る。
・人間の生活と微生物についての関係を考えると同時に、自然界の大切さを考える。

講和内容

Ⅰ　微生物について　「微生物って何か知ってる？」

→少し難しい言葉だけど、皆の目には普段見えない小さな生き物で、細菌やカビの事を言うんだ。皆がよく聞くものは、風邪の菌やお腹が痛くなる菌、虫歯になる菌があるよね。でも、微生物は病気の菌のように皆にとって害のあるものばかりじゃないんだ。例えば、ふくろうの森の土を使って小さなふくろうの森を作ったよね。その時に入れた生ゴミや、すくすく農園の土の中や、コンポストへ入れている生ゴミ（土着菌）はどうなったかな？

Ⅱ　味噌について…（麹カビ）

→①絵などで大豆や麹について反復学習する。（豆まきの豆、甘酒のにおい等）
　②大豆＋米麹（麹カビ）＝発酵＝味噌

Ⅲ　ぬか漬けについて…（乳酸菌）

→ぬか漬けって知ってるかな？
　☆野菜＋米麹（乳酸菌）＝発酵＝ぬか漬け

Ⅳ　その他の発酵例

→他にも皆にとって役に立っている微生物が沢山働いている。
　例）　大豆…醤油や納豆
　　　　ぶどう…ワイン
　　　　お米…日本酒
　　　　小麦粉…パン　　　　などになるんだよ！

Ⅴ　食物連鎖　　　身近な生活のサイクル

大豆を作る→味噌を作る→味噌を食べる→排便をする→肥料を作る
　　　　↓　　　　　　　　　↓
　　調理のへた　＋　　残飯を出す　＝　肥料を作る

Ⅵ　まとめ

地球には、人間だけが生きてるんじゃないよね。象やクジラのような大きな生き物から微生物のような小さな生き物が生きている。皆で太陽、水、空気等を分け合って生活しているんだ。

目に見えない微生物や植物・動物・色々な生き物に助けられて生活し、生き続けているんだ。
（※地球と人間が仲良く握手している絵を見せる。）

皆が生活して生きているためにも、自然・地球環境を大切にしていこうね！

科学を愛したアインシュタインのつぶやきの中で…

「アインシュタイン150の言葉」(ディスカバー２１より)

○「私には、特殊な才能はありません。ただ、熱狂的な好奇心があるだけです。」
○「大切なのは、疑問を持ち続けること」
○「何かを学ぶために、自分で体験する以上にいい方法はない」

この言葉が、今回の貴社の研究テーマ「科学する心を育む」の実践の的になったことはいうまでもない事です。しかし、未来の子ども達に託する「人と環境」について、レイチェル・カートンの「沈黙の春」の中で、私達人類につきつけられた大変大きな課題が述べられています。それは…【自然と付き合うのは、自然支配ではなく、人類らが自らを律することである】と言っています。このまま地球と共に滅ぼすか、または、不自由に貧困に耐えて生きながらえていくかの二つしかないと言われています。

このことをふまえて、今「科学する心」をどのように導くか、幼児教育として肩にズッシリとのしかかっていく課題です。今回、園創立以来１９年間で「科学する心を育む」幼児教育プログラムとの出会いで、子どもの内なる成長に触れる気付きの教育、特にエコロジー教育の体験学習を文化と文明の連鎖的・運動的な活動として、その充実をまとめることになりました。
しばらくは、この教育法を実践し、継続に努力し、更にもっともっと改善を見出して前進していけることと思います。

毎年恒例の、収穫に感謝し皆で祝う【みどり丘　ちびっ子秋祭り】

皆で【お餅つき】！

畑で収穫した野菜！

美味しいさつま汁！

御神輿「ワッショイ！」

すくすく農園の野菜を味噌仕立てで頂きます！　毎年、地域の皆様にも大好評！

お餅を丸めてさつま汁に♪

皆で「頂きます！」

保護者や地域の皆様と一緒に！

皆が作った畑の土で育った【沢山の野菜】　栄養と愛情がたっぷり！

【幼稚園の実践目標】

おわりに

《やってみよう！！》

○これからの取り組み

環境教育の目指すアクション　「やってみよう！！」(一人一人の行動について)

・アクション
- ・冷暖房の温度設定を28℃に。(室内遊びと戸外遊びの関係)　→空気・温度差と体温について
- ・電気の使い方に工夫(保育室の朝・昼・夕の違い)
- ・水道水の使い方（給食後の始末)
- ・リサイクル製品の使用(おもちゃの工夫、紙細工の工夫)

○リサイクルの意義

遊びの展開を創造的にし、エコロジーの大切さ、地球と環境、CO2ストップ！　につながる意味がわかる。

○からくりする心とその楽しみ方

"動く"の不思議から次々と展開された動き(エネルギー)への関心は、身近な美しいビオトープの保存につながり、生き物をいたわろうとする優しさと責任を身に付け、日々その生命に触れる喜びと楽しみである。

○郷土愛の育みと興味

伝統文化の楽しみ

→からくり人形の不思議、紙芝居(世代間交流)の学習、映像を通しての人形浄瑠璃の面白みへの導き

→地域の方々と浄瑠璃のいざない

→人形浄瑠璃の不思議

○親と子で科学する大切さ

子どもの好奇心や興味の深い不思議さを探求する幼稚園教育の活動に共通点を見出し、親もその科学性に触れ、子どもの会話を豊かにし、正しい子どもの成長を願う親の教育心が大きく前進。

○親と子の優しさの育ちの時間

家庭と地域と園とで、子どもは好奇の念を強く抱くものであるから、その育ちによく注意をし、社会人として成長していくプロセスでは、考え方や見方・行動力において、善いエキスを吸収していく必要があろうかと考える。

ビオトープの様子を話し合っている光景は、微笑ましい。「メダカの赤ちゃん、いっぱい！」「これ何の魚やろう？」「わぁ、トンボ！　シオカラトンボだ！　まだ触ったらあかんよ！」「羽が乾いていないから、もうちょっと待って！」「わぁ、トンボが飛んだ！」「また帰ってくるかな？」「うん…」

このような会話は、親と子の優しさの育つ時間ではないだろうか？

○地域で、家庭で、園で、小学校で一緒に伝え合う空間を共有

【自然な好奇心や創造性】を培うのには、周囲の態度や理解が大切である。特に幼児期の好奇に迫るには、いつも環境が大切であると思う。

幼稚園だけでとどまらず、小学校への【理科ばなれ】を鑑み、交流において話し合い、連携して"不思議"に気付き、創意・工夫していく生き方の大切さ。つまり、大人が子どもの「どうして！？」に答えられる以前に、子ども自身が「何でこうなるの？　どうして？！」と次々と感じ、考える環境【家庭・地域・幼稚園・小学校】作りを実験できるように、子どもの周囲に充分な努力と注意を払いたいと思う。

これから…

これからの教育の視点【生きる力：環境と幼児教育】

《教育の原点と、その考え方》

「科学する心」を育むのは、創造力をかきたて、さらに"生きる力"を地球人として、グローバルに生活設計をしていけることであり、平和で人類の発展を考えることの出来る人への育ちと思えます。私達は、はじめに幼児の手指機能の発達から出発。"自分からの自立"つまり、子ども自身の未熟の不自由から、心身の活動の内なる開放された自由さにまで発達出来るよう、援助の教育研究を進めました。それは、ソニーの井深　大氏の「幼稚園では遅すぎる」の書物との出会いであったのです。

では、何が遅すぎるのかという研究は「機能遊び」の教育法として進められました。それは、記念すべき幼児教育支援プログラム第１回目の研究のまとめの応募でした。「手と大脳」のことでも有名なペンフィールドの様式図にも見られるように、「手」や「口」は、人間の活動にとって大きな役割を示しています。また、数多くの「こどもの仕事」として幼児教育思想化でもあり、医師であったイタリア人のマリア・モンッテソーリは、ある時、教具を使わずにして身の回りにある自然物を使い、【創造の物語】を教えたといわれています。

その例は…

光においては…自然の光る物・人工的に光る物・ろうそくの火・マッチの火
大地においては…【地球のかけら】違う種類の石集め・色・形など
生物においては…虫を見つける
種子においては…木の実・葉・草など

そしてモンテッソーリは、これらを元に環境について話し、生命の誕生とその相互関係について、いつも子ども達に話したそうです。"生と死"を考えつくよう、更に、天候や季節、池、川、湿地、生き物について学ぶことにし、人間の存在と地球の歴史の長さを知らせ、自然に対する畏敬の念や謙虚さを教えたと言われています。

0～6歳	感覚を通しての学び
6～9歳	知識を通しての学び
9～12歳	物事を証明することを学び、理解することができるようになる

このように、幼児期は自立を重点において興味・好奇心に満ちて行動し、環境と関わり、直接的に体験する時期（モンテッソーリは、心理エネルギーと呼ぶ）は、特に「創造の不思議・生命の神秘」をよく知ろうとする知的・情緒的成長の感受性が最も強いこの時期にこそ、身近な自然との出会いが大切と考えられたのです。環境教育を仕組まなければ…と、大切な事を見逃してしまいそうになるのではと言っているような気がします。

まさに、私達にとっては『科学する心を育む』は、ピッタリとした研究課題でした。マリア・モンッテソーリは、「自然こそが生命について教える教師である」とも言っています。これは彼女の「コスミック教育」と呼ぶところです。幼子は、生きとして生けるもの全てに"命"を吹き込み話しかけていきます。私達は"自然の子"この幼子が科学性を感性として獲得し、成長すれば、地球的視野に基づいて【科学の手】で人間をはじめ、地球上の生物の連鎖バランスの保持に努力出来る忍耐強い人になってくれるのでは…と思うところです。

これから子ども達には、身近な自然の事象などに関心や興味をもち、自らの方法で見たり、考えたり、どのように扱えばよいか体験していってほしいと願っています。季節や天候によって、自然に著しい変化のある事や、私達人間や動植物にも影響を受けることが分かり、それらをきわめて簡単な事実として気付かせていきたいと思います。身近な山・川・気象・天体などに驚きと不思議・親しみを感じ、その偉大さと美しさに感動できる子どもであってほしいと願っています。

研究代表者　園長　三浦　瓔子

今後の課題　　**【楽しくエコロジー】**

教師としての今後の課題…

見えることに不思議を感じ、見えないものに探究心が芽生える環境つくり

《子どもの科学する心の発達サイクル》

さあ！　今日も見つけよう！

＜健やかな心と科学する心が共に発達するプロセス＞

この研究がもたらしたものは、日常における集団生活で培われる心身の成長発達のバランスには「興味をもち、夢中になれるものに出会い、発見の実践活動」が大変有意義であり、楽しく健やかに子どもの科学が伸ばせるものと理解した。

① これまでの取り組みと新たに教育内容や方法の改善に取り組む点について

・教員研修…モンテッソーリ教育の研究(機能遊び)→子どもの成長と科学性
・自然の観察を深め、調べたり作ったり話し合ったりする教師間のチャンスを計画的に実践するプロジェクトの継続
→科学性をもって環境教育として発展、連鎖的に楽しく計画していく。

② 環境エコロジーについての観察・体験・整備の事業終了後に期待される効果と、今後継続して取り組む点について。

・保護者、地域へと拡がり、大人が環境モデルとなって知恵袋の「学びの場」で「生きる力」を培っていく。そして、命の大切さを身体にすり込んでいく。
・新しい科学の遊びを経験し、不思議なことやものに興味や好奇心をもつ。
・環境整備で、科学遊びの基盤が出来ること。さらに、発展が期待できる。
・これまでの研究として“ふくろうの森”の植林活動・シイタケの栽培への挑戦。洞窟作りの充実。
・微生物と発酵について学び、食育へと発展させた研究は、次の新しい未来に関心をもって生活出来るようになり、"目に見えない物に対して、深く関心"をもつことを期待する。

人間関係「情操」の領域

子どもの全体的な発達として、音楽・美術・織物縫物・造形・外国語など吸収をする機会を定期的に体験している。

【おんがく発表会】

【表現遊び発表会】

【織り機】

【製作】

【カプラであそぼう】

【英語であそぼう】

【祖父母お招きの会】

みどり丘幼稚園での子どもの生活はこのように全体的に成長を捉えている。幼稚園としては、制度の枠組みの中で国の子ども・子育て支援法のうちだしを受け、保護者への施策として、施設型給付受け皿体制を整えるよう方向性をもった。

その舵取りには、次のような動向と洞察がある。